

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 公民科 科目 倫理

教科：公民科 科目：倫理 単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 3 組～ 4 組

教科担当者：（3組：古橋）（4組：古橋）

使用教科書：（高等学校 倫理（第一学習社））

教科 公民科 の目標：

- 【知識及び技能】 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。国家及び社会の形成者として必要な概念や理論などを活用し、現実社会における複雑な課題を把握し、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、その妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。
- 【思考力、判断力、表現力等】
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 倫理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付ける。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題に関連して、学習上の課題を意欲的に追究しようとしたり、他者と共によりよく生きる自己の形成に向けて、多面的・多角的に考察する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をもち、様々な人間の心のあり方を理解する。 ・生きることの意味について、自分自身の問題と捉え、「いかに生きるか」という倫理学習の基本的課題に結び付ける。 ・古代ギリシアの思想をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 	第1章 人間の心と自己形成 1 青年期の課題と自己形成 1. 人間とは何か 2. さまざまな人間の心のあり方 3. 自立して生きる主体の形成 第2章 人間の存在や価値と宗教 1 ギリシアの思想 1. 哲学の形成 2. 哲学の確立 3. ギリシア思想の展開	【知識・技能】 ・人間の特質とは何かを理解している。 ・自分の生きている青年期はどのような位置にあり、どのような発達課題があるのかを考えている。 ・人間がどのように感じ、学び、考え、行動し、発達するかに関して、心の仕組みと成り立ちを理解している。 ・古代ギリシアに見られる先哲の基本的な考え方が、理性的な人間観に支えられていることを理解している。 ・「ソクラテスのことば」から、「よく生きることこそ大切である」という彼の信念を読み取っている。 【思考・判断・表現】 ・様々な人間の心のあり方を踏まえて、人間とは何かを思索し、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めている。 ・ソクラテスの「無知の知」やプラトンのイデア論はどのようなものであるか、両者を比較しながら考察している。 ・ソクラテスの言行やプラトン、アリストレスの思想、ヘレニズムの思想から、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて思索している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・様々な人間の心のあり方について、科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく	○	○	○	16
<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・イスラームをもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 ・仏教をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な先哲の思想について、自己との関わりにおいて理解する。 	2 ユダヤ教とキリスト教 1. ユダヤ教の世界 2. イエス 3. キリスト教の発展 3 イスラーム 1. イスラーム 4 仏教 1. インドの思想文化 2. 仏教の誕生と展開	【知識・技能】 ・イエスの思想をユダヤ教と対比させて、神の愛・律法の内面化という視点を中心に理解している。 ・イスラームはどのようにして誕生したか、ムハンマドの教えにはどのような特徴があるのか、ユダヤ教やキリスト教とはどのように関係するかを理解している。 ・『クルアーン』について、日常生活で行うことまで規定していることを読み取れている。 ・インドの人々は、どのような死生観をもっているかを理解している。 ・ゴータマの教えは、深い思索を続ける生き方そのものであることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・原罪や恩寵の思想に見られるキリスト教の人間観について、自己の課題と重ね合わせて思索している。 ・メッカの方向を調べるなどして、イスラームの基本的教義(六信・五行)を実感している。 ・日本になじみの深い宗教である仏教の教えを知り、仏教思想の現代的な意義はどこにあるのかを考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・イエスの言行やパウロ、古代中世のキリスト教の思想から、人間をどのように捉え、どのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら自己の課題と結び付けて思索している。 ・ムハンマドの言行などから、社会の中で人間がどのように生きることを指し示しているかについて、多様な倫理に関する諸概念を踏まえながら、自己の課題と結び付けて思索している。	○	○	○	16

